



平成 27 年 11 月 4 日

各 位

会 社 名 曙ブレーキ工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 信元 久隆
(コード：7238、東証第一部)
問合せ先 経理部長代行 荘原 健
(TEL. 048-560-1501)

平成28年3月期 配当予想の修正に関するお知らせ

平成27年5月7日に公表いたしました平成28年3月期の予想値に対して、米国の最近の業績の動向等を踏まえ現時点での通期連結業績予想に差異が生じることが予想されますので、配当予想について修正いたしましたのでお知らせいたします。

今回の決定について、株主の皆様には、多大なるご心配とご迷惑をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

記

1. 配当の状況

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	年間(合計)
	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成27年5月7日発表)	5.00	5.00	10.00
今回修正予想	0.00	0.00	0.00
前期実績 (平成27年3月期)	5.00	5.00	10.00

2. 修正の理由

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして位置づけております。業績および配当性向、持続的な成長のための投資資金としての内部留保などを総合的に考慮しながら、長期的に安定した配当を維持していくことを基本方針としております。しかしながら、第2四半期(累計)期間業績および通期業績が、米国を中心(*)として前回公表値より大きく下回る見込みとなったことから、第2四半期末の配当および期末の配当は、見送りとさせていただきます。別途本日「当社における売上認識に関わる不適切会計の可能性および、平成28年3月期第2四半期決算発表延期に関するお知らせ」にて開示させて頂いているとおり、調査委員会を設置して影響額を精査する予定になっていますが、その結果が判明次第、速やかに業績予想の修正を公表いたします。

(*)昨年下半年からの生産混乱が継続・拡大し、上期で期初計画(12億円の営業損失)に比べ、営業損失42億円の見込みで約30億円の損失拡大、通期では期初計画(2億円の営業利益)に対し、97億円の営業損失の見込みを立てており、99億円の落ち込みとなっております。その他の地域では、日本はじめ計画比は若干のプラスになっているものの、連結ベースでの大幅な赤字は避けられず、中間・期末とも配当を見送らざるを得ない状況となっております。詳細は別紙のとおりです。

以 上

【別紙】

(1) 米国の上期の状況

売上高はほぼ期初計画どおりとなりましたが、営業利益については、一部収束に向かっているものの昨年同期以降の生産混乱が長引き、ケンタッキー州のエリザベスタウン工場（以下、**ABE**）以外の生産拠点でも労務費や多額の緊急輸送費などの追加費用が発生しており、大幅な営業損失となりました。詳細は以下のとおりです。

期初計画におきまして、**ABE**は昨年同期からの生産混乱を、日本からの設備保全支援、設備の追加・増強、他拠点への生産移管などの対策を講じることにより、今上期で収束し今下期から正常生産体制にすることを目指してまいりました。しかしながら、市場の拡大を受けた受注量の高止まりもあって人員の削減が計画どおり実行できておりません。

同州のグラスゴー工場（以下、**ABG**）においても、米系完成車メーカー向け組み付け部品・日系完成車メーカー向け補修部品の販売拡大に加えて少量多品種の市販向けディスクパッドの受注が昨年末より急増し、生産が追いつかず一部ラインでは3直7日（週7日、1日24時間体制）の稼働を継続せざるを得なくなり、それに対応するためパッド生産ラインを5月から1ライン増設しました。しかしながら、景気上昇のあおりを受け工場周辺での人員の確保が難しくフル稼働に到っておらず、休日の出勤などによる労務費、生産逼迫による空輸等の緊急輸送費などの追加費用が継続して発生している状況です。

サウスカロライナ州のコロンビア工場（以下、**ABCS**）においては、欧州向けに新規獲得したビジネスの立上げ数量増加もあり負荷が増大した為、一部生産設備（アルミ鋳造設備）の故障が発生し、稼働率が著しく低下したことにより、出荷が遅れ空輸等の多額の緊急輸送費など追加費用が発生しました。

以上の結果により、米国の期初の上期計画営業損失見通し12億円が42億円と拡大いたしました。

(2) 米国の通期予想

完成車メーカー各社からの受注は、市場で人気の高いライトトラック向けのディスクブレーキ、および補修品を中心に、上期に引き続き生産能力を超えて推移することが見込まれております。従来の問題に関しては、種々対策により沈静化に向かっており、一部経費の削減に繋がっている他、完成車メーカーからの一部価格適正化も実現させ、加えて生産性も改善されてきております。然しながら、下期においてその増加する受注に対して生産対応が充分とはいええず、設備故障の影響が残る**ABCS**も含め、休日出勤の残業を含む労務費や空輸等の緊急輸送費を中心とした追加費用の発生が継続する見通しで、期初計画に対して予想数値を大きく下回る見込みです。

※ 北米の通期業績予想の期間：平成27年1月～平成27年12月

(3) 米国生産混乱収束に向けての今後の対応

米国での生産混乱収束に向けて現在進めている施策に関連して、以下を継続的に展開いたします。

・**ABE**

老朽化した設備の更新および増設を継続的に実施している他、工場を一部拡張し生産工程の改善をすることにより、設備稼働率を改善し、肥大化した現行の生産人員数の低減を進めております。同時に、生産品目（ディスクブレーキ、ドラムブレーキ、ディスクパッド）毎に工場長クラスの責任者、コストコントローラーを配置し、責任分担を明確にし管理を徹底することにより、利益の出せる生産体制に戻してまいります。

・**ABG**

生産人員不足による設備の稼働率低下への対策としては、北米内拠点間で生産人員を調整するなど、シフト制の改善も含め、工数確保に向けて手を打っている他、日本からも保全中心に指導員を派遣し、全ラインの稼働率を上げるべく、継続的な生産効率の改善を図っていますが、9月からは漸く本格的な出荷数量の増加として成果が出始めております。加えて客先からの増産要求による過剰な生産負荷を軽減する為に、最終消費地が北米以外（アジアなど）の受注製品については、日本（曙ブレーキ山形製造）とタイの生産拠点に一部生産を移管するなどグローバルネットワークを活用し、来年1月までにほぼ正常な生産体制に戻せると考えております。

・**ABCS**

本年4月末に発生したアルミ鋳造設備（溶解炉2基）の故障による生産量の大幅低下により、緊急輸送費が大幅に嵩み、赤字計上を余儀なくされておりました。6月に小型溶解炉を緊急設置した後、故障した内の1基は8月に修理完了、残る1基は12月末に修理を終える予定になっています。施策の成果もあり生産量が回復しつつあり、10月上旬には緊急輸送便も終了するなど、底を打ったと考えています。完全復旧に続き、今後の客先からの増産要求に応える為、来年4月を目途に設備を増設するべく着工しました。

・**各拠点**

2016年1月から3工場で新ERPシステムの稼働を予定しており、製品別収支、在庫管理、債権債務管理の一括管理の「見える化」を進め、数値管理の徹底に繋がってまいります。

米国での生産混乱収束に向けて、当社グループの最優先の経営課題と捉え、日本を含め経営のリソースを最大限に投入し、早期に正常化を図ります。

なお、以上の諸施策実行に加えて、ガバナンスの強化も含めた北米経営体制の抜本的な改善計画を策定中であり、完成次第公表いたします。

(4) 米国の上期および通期の業績予想との差異

単位：億円

	上期				通期			
	前回予想	今回予想	増減	為替影響	前回予想	今回予想	増減	為替影響
売上高	833.0	834.5	1.5	3.3	1,649.0	1,640.0	△ 9.0	9.0
営業利益	△ 12.0	△ 41.8	△ 29.8	△ 0.2	2.0	△ 97.0	△ 99.0	△ 0.5

為替レート(前提)	上期	通期
前回予想	120.0 円	120.0 円
今回見込/予想	120.5 円	120.7 円

(5) 各拠点別営業利益 上期および通期の業績予想との差異

単位：億円

	上期			通期		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
ABE	△ 16.3	△ 19.6	△ 3.3	△ 15.5	△ 41.1	△ 25.7
ABG	0.6	△ 3.9	△ 4.5	8.6	△ 15.0	△ 23.6
ABCS	0.8	△ 16.5	△ 17.4	5.6	△ 33.1	△ 38.7
ABCT	△ 0.2	△ 3.2	△ 2.9	△ 2.6	△ 8.7	△ 6.0
ABC	3.1	1.4	△ 1.7	5.9	0.9	△ 5.0
計	△ 12.0	△ 41.8	△ 29.8	2.0	△ 97.0	△ 99.0

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上